



ロータリー:変化をもたらす

RI会長/イアンH.S.ライズリー

D2600ガバナー/関 邦則

会長/佐藤重喜

副会長/宮本伸司

幹事/河野正美

会報委員長/奥寺浩司

第2632回例会

2017年10月5日 Vol.55/No.10

会員卓話

【入会式】

新会員紹介

荻原 淳 (おぎわら じゅん) さん

推薦者 山田裕さん



住 所 上田市長瀬2889-1

職 業 (有)荻原食品 取締役

生年月日 S44年8月22日

職業分類 仕出し

「本日は皆さん、大変ありがとうございます。ただ今、胸がいっぱいで何を申し上げていいのかわからず言葉が出てこないのですが、私自身はこの町で生まれ育ち現在、父の家業を継いで二代目として励んでおります。

先日皆様に「おだまき」へおいでいただいたことも感謝でございますし、また私どもの先代がおそらく皆様とどの様な場面かで、大変お世話になっていることと思って振り返っておりました。そのことも含めまして大変ありがとうございました。

一昨年、母が亡くなりましてから私たちの会社も代替わりと言いますか、父も一線を退く時が来たという事でありまして、私共兄弟が引き継ぎました。私自身は三人の兄弟の長男でございます。三人が一緒になって一つの事業をそれぞれの会社で頑張っている状況でございます。

ただ今の入会式を経て、皆様よりこれから多くを学ばせていただき、佐藤会長から託されました「四つのテスト」を常に頭に置きながら日々の仕事に満身していかなければならないと強く感じました。私自身、大変に力不足で何もお役に立てるわけではございませんが、毎週の例会には何とか出席をさせていただいて、皆様から多くのことを学ばせていただきたいと思います。皆様、本日は本当にありがとうございました。」



【会員卓話

奥寺浩司さん】



「縁」という言葉は仏教語の一つであり、由来は「因縁 (いんねん)」「縁起 (えんぎ)」という言葉から来ております。

「因縁」とは、因と縁のこと。結果を生じさせる内的な直接の原因が「因」であり、外からそれを助ける間接の原因が「縁」である。と説明されています。

「縁起」とは、他との関係が「縁」となって生起するという事で、全ての現象は原因や条件が相互に関係しあって成立しているものであって独立自存のものではなく、条件や原因がなくなれば結果も自ずからなくなるという事を指す。と説明されています。

私が今、浄土宗僧侶として存在していることが出来るのは、ある男性ミュージシャンの方 (Nさん) との縁をいただき、支えていただいた賜物であります。(そのミュージシャンの方は最後に教えます。)

今から22年前に始まった「縁」の話であります。その当時、私は出身地の北海道函館で高校2年生。当家菩提寺の住職の勧めにより出家・得度し菩提寺住職に弟子入りしました。高校の夏休みを利用して、京都の大本山へ行き「浄土宗教師養成講座」を受講し修行に入りました。ですが、若さゆえに色々な事に疑問を感じ、「このような若僧がお念仏を唱えることで、本当に亡き方は救われているのであろうか？」と悩み事が生じて修行を挫折しかけていました。

その時代に好きで聴いていた音楽を歌われていたのが、デビューされて間もないNさん。

Nさんは深夜のラジオ番組「オールナイトニッポン第二部」のパーソナリティーも務められていて、私は1ファンとして「ペンネーム・茶坊主」と名乗り番組に手紙やハガキを送っておりました。当時、男性ファンは少ない中、男性からの投稿にNさんは喜び、私の投稿を採用してくださり電波にのせて色々なメッセージを下さりました。

悩み事を手紙で番組あてに送りましたら番組のオンエアでNさんから「茶坊主、悩みを一回忘れて俺のライブに来いよ！」と言われました。ですがその時のNさんの全国ライブツアーでは、北海道地区は札幌のみでの公演。修行中で休みも取れず、函館から札幌までは距離が遠すぎて伺えない旨をハガキに書いて投稿すると、Nさんの粋な計らいで次年度の全国ライブツアーになんと函館を入れてくれました。Nさんからは「茶坊主、函館をツアーに入れたから絶対にライブに来いよ！その時は袈裟姿で来い！客席にお前がどこにいるか分かるようにだからな！」とラジオを通じて言われてしまいました。

Nさんとの約束を守るためライブ会場へ。入場の時は普段着で行きライブが始まる直前、会場の照明が落とされた時に法衣と袈裟を被着。周りのファンからは悲鳴にも似た歓声が(笑)！。Nさん登場でライブスタート。2～3曲歌われたときに客席にもライトが当たり私の存在にNさんが気づいてくれました。フリートークで色々と「茶坊主」の話題に触れていただきライブ再開。私は悩み事はすっかり忘れて素晴らしい時間を過ごしました。

そのライブにて一つ気づくことがありました。Nさんが精一杯の声で想いを込め歌われている。楽しい曲は聴いている我々も自然とウキウキとなり楽しい気持ちになる。悲しげな曲の時は聴いている我々もしんみりとなり想いが伝わってくる。

「あっ！これなんだ。想いを込めて精一杯のお念仏・経文を唱える事で、必ず目には見えてない方々へも功德が伝わり救われることができるのだ！」と大切な事を一つ悟らせていただきました。この事をきっかけに修行に打ち込む事が出来、19歳にして浄土宗僧侶の資格をいただくことが出来ました。

無事、修行を終え資格をいただいた報告をNさんにさせていただいたら、自分の事のように喜んでくださり励ましてくれました。このライブで貴い教えをNさんから頂いたので、私は一生忘れないためにNさんの下の名前を法名の中に入れております。(Nさん公認であります。)

その後はNさんも私も互いに大変多忙になり、お会いすることもなくなりましたが、滋賀県にお住まいのNさんの母方お婆ちゃんから「いつも孫を応援してくれてありがとうございます。」というご丁寧なお手紙を頂戴し、Nさんの家族とのお付き合いが始まります。

私も僧侶という立場ですので、京都の本山出張の帰りに滋賀県のNさんのお婆ちゃんのお宅へ寄らせていただきお仏壇を拝ませさせていただく事をお婆ちゃんも大変喜んでくださり、遂には正念寺というより私の信徒さんにまでなってくれました。Nさんのお婆ちゃんやNさんの御両親は嬉しくてNさん本人に連絡し教えたいと何回も言われましたが、

私が「1ファンが余計な事していると怒られるし、心配かけさせるので本人には言わなくてもいいですよ。」と断っておりました。ですが、遂にご本人に知られてしまう出来事が起きてしまいました。

今年の夏にNさんのお母様がお逝去されました。Nさんの妹さんよりご連絡をいただき、この茶坊主に葬儀をとの事、「父もお願いしたいと言っておりますし、兄もきっと喜ぶます。」と。私に縁をいただいた方のご葬儀なので、私を支えてもらった分、今度は私が皆さんを支えてあげるとの想いを抱き、精一杯勤める約束をして滋賀県へ伺いました。

通夜の日、Nさんご本人と久々の再会。喪主であるNさんへご挨拶をさせていただいたらNさんから「お前で良かったよ！知らない坊さんにお経を読んでもらうより、知っている人にお経を読んでもらった方が、おかんは絶対に喜ぶ！本当にありがとな！」との言葉。私自身、この言葉をいただき本当に救われました。

「今回はファンとしてではなく1僧侶として対応しますからNさんの立場上、失礼があるかもしれませんが。N家の長男さんという対応をすることをお許しください。」との言葉にもNさんは「承知しているよ！、よろしく頼む。」と。枕勤め・通夜・葬儀・初七日法要までの三日間、Nさんはじめ、ご家族皆さんへ僧侶として仏教の教えを伝えさせていただきました。

斎場からの帰り、御遺骨を抱いて涙を流しているNさんに私は「お母さんと永遠の別れをしたのでは無いのですよ。私たちの肉眼で見えていないだけで、大きな存在でいつでも傍で見守っているのですよ。残された者が、楽しいと思えばお母さんも楽しいと思われる。私たちが悲しいと思えばお母さんも涙を流される。肉体は無くなったが、縁の有る皆さんの体を使ってこの世の事を楽しまれる。体としては抱けないが、魂としては抱けるんですよ。皆さんの体を使って。」と慰めにもならない話をしました。ご本人も少し気持ちが切り替わったのか後日、Nさんのインスタグラムに次のような言葉が投稿されました。

「やっどひと息やな。おかんも初めてのことでくしで、大変やったね。僕も初めて喪主とかやれ言われて、なんぎしたわ(苦笑)。でも、ええ経験になったよ、ありがとう。これからは僕がおかんの目や耳の代わりになったるし、いろんなど一緒に連れてったるわな。それに西川貴教として新たなスタートを切るには、今まで以上の力が必要やから、きっと僕にいろんなんも預けてくれたんやな。(中略)まっだまだ上目指して頑張るし、力貸してや。頼むで、おかん。」

Nさんとは現在、歌に舞台にCMにと大活躍をされている「T.M.Revolution(ティー、エム、レボ

リレーション) 西川貴教 (にしかわ たかのり) さん) であります。(「消臭力ーッ!」とCMで歌われているお兄さんであります。どうか皆様も西川貴教を応援よろしくお願ひいたします(笑)！)

この度、西川家のご家族皆さんがお母様の葬儀をしっかりと勤め、「残された者と先に逝く者の魂の永遠のつながり」を確認し、また共に生きる力をつけることが出来て本当によかったと思っております。

「縁」によって我々は支えられ、そして縁によって誰かを支えてあげる。お互いが思いやることで、自分の周りには善因(善いこと)が寄ってきて、自分にしか出来ないお役を務め自分らしく輝くことが出来るのだとつくづく感じた次第です。

どうかこれからも自分を成長させ、魂を磨くために「縁」を与えて下さったことですので、「縁」を大事にさせていただき自信を持って自らのお役を全うしていただきたいと思ひます。

余談ですが、私の法名は「浄蓮社鳳譽上人瑞阿貴教浩司和尚」(じょうれんじゃ、ほうよしょうにん、ずいあ、ききょう、こうしかしょう) であります。私に万が一の事がありましたら、この名前を読んでいただきお念仏を回向していただければ幸いです(笑)！



ご清聴ありがとうございました。

【会長挨拶】

佐藤重喜会長



皆さんこんにちは。今日は、今年度二人目の新会員の入会式を行う事が出来ました。ご推薦いただいた山田裕さんは本日上田西RCのガバナー補佐事前訪問で小宮山さんと出かけておりますが、素晴らしい方をご推薦いただき感謝申し上げます。

皆さんのお陰で4か月の間に2名の新会員を迎えることができました。ありがとうございます。お二人とも丸子RCでは未充填の職業分類の方です。その意味でも非常に良い方を推薦していただきました。まだ未充填の職業分類の候補者がいますので是非入会していただけますよう関係者は宜しくお願い致します。

3年先、5年先を見据えたロータリーの戦略計画の目標の中に、「会員基盤の多様性を奨励する」とありますが丸子クラブは行っていると言えるでしょう。

更には、「人道的奉仕の重点化と増加」の中で〈他団体との協力やつながりを深める〉とありますが、中学1年生野球大会はその一つです。建設業協会上小支部及び上小建設事業協同組合より協力依頼を受け、地域の問題に聞く耳を持つことができ、我々の問題意識に取り組み活性化をするという文化が丸子クラブには根付いたのではないかと思います。今では丸子クラブの大きな事業の一つとなっています。今年11月11、12日で行われず。皆さんのご協力を宜しくお願い致します。

また、7,8日に行われる“げんきまるこ産業フェスタ”では、田中利幸さんが鉄道のジオラマを展示します。そこに〈ロータリーデー〉としてポリオ募金のブースを開かせていただきます。そちらへの協力も宜しくお願い致します。

【例会の記録】

- ◆SAA 小山充浩さん
- ◆司会 掛川浩邦さん
- ◆国歌斉唱
- ◆ロータリーソング 奉仕の理想
- ◆10月慶祝
 - 結婚祝 工藤洋三さん、内堀敏高さん
長島三夫さん、河野正美さん
岸茂さん、成澤嘉彦さん
戸堀一夫さん
 - 会員誕生祝 栗木悦郎さん、小山充浩さん
 - 配偶者誕生祝 山田善子さん、岡野弥寿子さん
荻原朋子さん、

【出席報告】

	会員数	出席者	メイク	出席率
本日	35名	16名		61.54%
前々回	33名	19名	6名	100.00%



ラッキー賞 服部正さん

久しぶりのラッキー賞です。ありがとうございます。

【幹事報告】

河野正美幹事

今週の着信

- ・第2600地区ガバナーより
ガバナー公式訪問の礼状送付
- ・上田東ロータリークラブより
第29回RYLA開催の礼状送付
- ・上田ローターアクトクラブより
例会参加の案内送付

今週の配布物

- 会報No.2630、No.2631
- ロータリーの友10月号
- 月信No.4
- 米山豆知識

週報恵送

上田西RC



【にこにこBOX報告】

斎藤育子委員長

「宜しくお願い致します。」 荻原淳さん
「荻原さんご入会おめでとうございます。」
佐藤重喜さん、河野正美さん、小山充浩さん
工藤洋三さん、内堀敏高さん、宮本伸司さん
長島三夫さん、井田宗広さん、佐藤一元さん
服部正さん、栗木悦郎さん、奥寺浩司さん
掛川浩邦さん、吉村香織さん、 斎藤育子
本日の喜投額 38,000円
累計喜投額 209,000円



道徳律（職業倫理訓）の策定(1915年)

事業および専門職務のリーダーたちの集まりであるロータリーは、自らの職業において高い道徳的水準を維持すること、業界の職業倫理を高揚することに力を入れました。

1915年のサンフランシスコ国際大会で11カ条からなる、「職業人のロータリー道徳律（職業倫理訓）」が採択されました。

現在では、「歴史的文献」とされ、国際ロータリーの公式資料には掲載されていませんが、その内容は、ロータリーの「奉仕の理念」の真髄を表現しており、現代社会においてもロータリアンが守るべき指針となるべきものと考えられます。職業宣言を経て現在では、ロータリアンの行動規範へと変遷しています。
(サンフランシスコ国際大会で採択)

アーチ・クランプ基金創立（1917年）

1917年アトランタ国際大会で、アーチ・クランプ (Arch C. Klumph) 会長 (1916-17年度) は「世界で善を成すための寄付金」を呼びかけ1917年アトランタ国際大会で提案し「ロータリー基金」が創設されました。

数か月後、1918年、カンザスシティロータリークラブが、カンザスシティ大会の余剰金米26ドル50セントの最初の寄付金が寄せられ、1927年のミネアポリス国際大会で、「ロータリー基金」は「ロータリー財団」と改称されました。

2017年・本年度、創立100周年を迎え、各地で祝賀・記念行事が盛大に開催されます。

理念の提唱か 奉仕の実践か

1915-1923年頃、奉仕理念を提唱・奨励していくことを主にするか、実際に困っている人たちへの奉仕を積極的に行っていくか、という路線対立がロータリアンの間で起こりました。

理念提唱派は、自らの職業で利益を適正に配分し、業界の職業倫理を高揚し、自己研鑽に励み、奉仕活動は個人の立場で行うべきだと主張します。

一方、奉仕実践派は、社会的弱者に対する人道的奉仕を実践すべきだ。そのためには、金銭的な援助やRCの団体としての活動も積極的に行っていこうと主張します。

当時は、身体障害児への援助に熱心に取り組むクラブも多く、世間ではロータリークラブは身体障害児援助専門の団体と思われていたこともあったそうです。

身体障害児対策（この運動でとくにオハイオ州エリリア・ロータリークラブのEdgerAllen通称“Daddy Allen”が有名で身体障害者養護協会を設立した）に傾注しすぎて、資金的に行き詰るクラブも出てきました。

この路線対立で、ロータリーは分裂の危機を迎えます。

決議 23-34（1923年）

1923年セントルイス国際大会で決議 23-34（1923年国際大会の第34号議案）が採択されました。これは、奉仕理念と奉仕実践の調和を図り、理念提唱か奉仕の実践かという路線対立を解消するものでした。

この6条からなる決議23-34は、現在では「社会奉仕に関する1923年の声明」として知られていますが、採択当時は、「社会奉仕」に限定されるものではなく、ロータリーの「奉仕」と活動に関する基本方針（RI並びにロータリークラブの未来の指針として綱領に基づく諸活動に関するロータリーの方針を明確に表わすもの）の表明でした。

第1条でロータリーとは何か、第2、3条でそれぞれRCとRIの役割を述べ、第4条では「ロータリーは実践哲学」であることを謳い、第5条で「クラブ自治権」を確認し、第6条では、社会奉仕活動の指針を示しています。

特に第1条は、ロータリーの「目的」に謳われている「奉仕の理念」すなわち奉仕の哲学を明確に定義した条文として、極めて重要な価値があると考えられます。

（2010年規定審議会にて、決議案 10-182 「社会奉仕に関する1923年の声明」の第一項を、奉仕の哲学の定義として使用することを検討するようRI理事会に要請する件 が圧倒的多数で採択されました。）

第1条 ロータリーは、基本的には一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。

この哲学は奉仕—「超我の奉仕」—の哲学であり、これは「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という 実践的な倫理原則に基づくものである。